

全国支部長・委員長会記録

- 開催日 平成22年1月15日(金) 14:00
場 所 鉄鋼会館 803号室
出席者 高木理事長
阿部・北海道支部長、岩谷・東北支部長、
酒匂・東京支部長、真柄・新潟支部長、
林・東海支部長、永吉・大阪支部長、
浅利・中国支部長、木村・九州支部長(代嶋津)、
吉里・総務委員長、高橋・統計委員長、
高田・生産性委員長
柘野、染宮(事務局)
- 議 題 (1) 理事長挨拶
(2) 平成22年鉄鋼流通合同賀詞交歓会について
(3) 第35期通常総会の開催概要について
(4) 建築構造用鋼材の品質証明ガイドラインについて
(5) 月次統計「鋼板流通調査」の精度向上と速報化
について

経過

1. 理事長挨拶

昨年はいどい年であったが、今年はずっと大変で、各社生き残りをかけた年になるろう。昨今の厳しい経済状況の下、皆がしん吟しながら我慢している局面にある。こうした中で、先行指標の一部に、若干回復の兆しも見え始めている。例えば、粗鋼生産は昨年1~3月は年率8000万トンペースまで落ちたが、回復基調にあり、工作機械受注も概ね80%減で推移したが、12月は60%増となった。いずれも大底からの戻しに過ぎず、依然水面下にあることに変わりはない。ただ、こうした上向き気配が少し窺えるようになったこともあり、2番底への懸念はやや薄らいだようにも思える。しかし我々を取り巻く経営環境は見通しが立たないだけに、先への不安が全く払しょくできないでいる。だからこそ今、自分たちの会社の経営状況をもう一度見直し、自社の“立ち位置”を確認しようではないか。

当組合の共通の課題としては、材料メーカーおよびユーザーに対する要望、情報発信を積極的に行うことが必要である。

我々はこの1年間、在庫調整に努めてきた。この間材料メーカーはアジア向けの輸出増を主因に、操業度は90%近くまで回復し、厚板のメーカーロールはパンパンの状況だ。

一方内需に依存するシャーは低操業にあえいでいるが、これからも需要回復は期待できず、今後は「6割操業」でも生き残れる道を探究しなければならない。この地道な不断の努力を怠れば、厚板シャー業だけが置いてきぼりを食うことになる。

①材料メーカーへの要望としては、工期の短縮化、規格の簡略化の必要性を呼びかけてまいりたい。納期が3～4カ月要するようではデリバリーの“ミスマッチ”が生じ、すぐ在庫増に繋がってしまう。

次に、ユーザー（FAB）とは、品詞証明問題（トレイサビリティ）についての『ガイドライン』が昨年末完成したので、それを踏まえて色々協議してまいりたい。当組合内にタスクフォースを再編成し、実行方案作りを進め、1年以上かけて作成した『ガイドライン』が“絵に描いた餅”にならないように、手間ヒマがかかると思うが、根気強く話し合いを重ねていくこととしたい。今年も組合員各位のご協力をお願いしたい。

2. 平成22年鉄鋼流通合同賀詞交歓会について

今年の賀詞交歓会は、会場を従来の「虎ノ門パストラル」（閉館）から、「ロイヤルパークホテル」に移し、開催。幹事団体は全国コイルセンター工業組合。式次第は以下の通り。

開会挨拶	鈴木貴士・コイルセンター工組理事長
来賓祝辞	小糸正樹・経産省製造産業局鉄鋼課長
乾杯挨拶	内田耕造・鉄鋼産業懇談会会長
中締め	村山和雄・関東コイルセンター工業会会長

・出席予定者は、約650名（招待50名、メーカー・商社120名、会員480名）で、昨年並みの出席者数。

3. 第35期通常総会の開催概要について

第35期通常総会の開催概要は以下のとおりである。

①総会

開催日	平成22年5月21日（金）	15：00
時 間	15：00	第35期総会
	16：00	講演会
		演題：中小企業の生き残る術（仮題）
		講師：疋田文明氏（経営ジャーナリスト、元気塾主宰、村山鋼材顧問）
	17：00	総会懇親会
場 所	鉄鋼会館	
	東京都中央区日本橋茅場町3-2-10	

②懇親会及び会費

パーティ 立食形式

参加費 組合員は1社1人は無料、2人目から1人5千円。
賛助会員は無料。

③ゴルフ

開催日 平成22年5月22日(土)

場 所 「若洲ゴルフリンクス」(7組予約済)
東京都江東区若洲35
TEL: 03-3522-3223

交 通 JR京葉線「新木場」駅から5分。送迎バスあり。

4. 建築構造用鋼材の品質証明ガイドラインについて

高木理事長より、配布された冊子『品質証明ガイドライン』に関し、以下の説明があった。

日本鋼構造協会が20年3月に設置した『鋼材品質証明検討委員会』のもとで検討してきた、標記ガイドラインが昨年12月完成した。本ガイドラインの普及促進がファブ・シェアリング両業界にとって業務効率化＝合理化に資するものと期待できることから、両業界共同でこのガイドラインに沿った新しい品質管理の実施方策を企画・協議していきたいと考えている。近々、鋼構造協会では講習会実施の方向で検討を開始するようであり、この点も踏まえつつ、タスクフォースのもとで当組合の事業展開を図ってまいりたい。

なお、本冊子は1月中に、全組合員企業あてに事務局より送付する予定である。

5. 月次統計「鋼板流通調査」の精度向上と速報化について

事務局より、月次統計の精度向上作業の経過について以下の報告があった。

現統計は平成12年1月に全面的見直しが行われて以降、毎月継続実施されている。この間、調査対象である組合員の大幅な異動があり、地域・品種・受入・販売・在庫ごとのカバー率も変動していると判断される。そこで21年7～8月に臨時総務委員会(理事長、総務・市場・統計各委員長で構成)を開催し、約10年ぶりに、精度向上のための見直し検討作業を行うこととした。

昨年9月、組合員173社に調査票を送付し、協力を依頼した結果、9月調査票では95社(既存61社、新規34社)から協力回答を得た(ただし新規については、継続性の有無は流動的)。さらに統計精度の向上化を図るため、在庫保有3000トン以上の大手企業約20社に対し、再度協力依頼を行うこととなった。

本年3月を目処に、①新規調査対象会社を固めて、②カバー率の確認、③統計データの集計・発表方法等について、詳細検討の予定。

以上